

(4) 行動傾向別分析

『友だちと仕事や働くことについて話をする』『新聞の政治欄や経済欄を読む』学生・生徒ほど、理解度が進んでいる

友だちと仕事や働くことについての話をほとんどしない生徒・学生では、その半数以上が「理解度レベル1」にとどまっており、日ごろの関心の有無が理解度の差となっていることがわかる(53.1%)。一方、部活動や習い事、ボランティア活動などの経験は、直接的には理解度の向上に結びついていないようである。

※問 12、14 のデータは高校生・大学生等を合算した値を掲示している。

